

土地改良事業計画概要書

県営大和地区

区画整理(経営体育成基盤整備「農地中間管理機構関連型」)事業

目 次

第1章 目 的	-----	1
第2章 地域の所在及び現況	-----	2
第1節 地 域	-----	2
第2節 地 積	-----	2
第3節 現 況	-----	3
第4節 地域環境の概況	-----	11
第3章 基本計画	-----	12
第1節 事業計画の要旨	-----	12
第2節 営農計画及び土地利用計画	-----	13
第3節 用水計画	-----	14
第4節 排水計画	-----	17
第5節 道路計画	-----	20
第6節 農用地造成計画	-----	20
第7節 農用地整備計画	-----	21
第4章 工事又は管理の要領	-----	23
第1節 工事の内容	-----	23
第2節 管理の要領	-----	23
第5章 換地計画の要領	-----	24
第6章 費用の概算	-----	26
第7章 効 用	-----	27
第8章 他の事業との関係	-----	28
第9章 計画概要図	-----	28

第1章 目的

本地区は、上越市の南部に位置する一級河川青田川の扇状地扇端で、一級河川矢代川と一級河川内川の合流地点に形成された農業地帯であり、水稻を中心とした営農が展開されている。

これまでに地区内では担い手への農地集積を進めてきたが、現況の水田区画が6 a程度であるうえ、農道が狭小なことから大型機械の作業効率を十分に発揮できず、集積が進まない状況にある。また、排水不良による湿田状態であり、農地の汎用化・高度利用化を阻害しているうえ、用排水路も土水路が多く残るなど水管理にも苦慮している。

このため、農地の大区画化や暗渠排水の整備により生産性の高い優良農地を確保するとともに、担い手への農地集積・集約化を促進し、農業の効率化によるコスト低減と収益性の高い園芸作物の拡大による所得向上を図り、安定した農業経営と農業の持続的発展を目指す。

第2章 地域の所在及び現況

第1節 地域

事業名	地域
区画整理	新潟県上越市大字稲荷、大字今泉、大字荒町、大和5丁目 新潟県妙高市大字飛田新田、大字青田

第2節 地積

(令和6年8月現在)

事業名	現況地目	田	畑	原野	山林	その他	計	備考
	市町村名	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	
区画整理	上越市	62.5	3.8	—	—	14.3	80.6	
	妙高市	3.5	—	—	—	0.8	4.3	
合 計		66.0	3.8	—	—	15.1	84.9	

第3節 現 況

1. 気象及び海象

(1) 一般気象

観測所名	高田	かんがい期	非かんがい期	計又は平均	備 考
観測期間	1953年 ～ 2019年	5月 ～ 8月	9月 ～ 4月		
平 均 気 温 (℃)		22.0	9.2	13.4	年平均値 (1953年～2019年:気象庁HPデータ)
降 水 量	平 均 (mm)	638.5	2,243.0	2,881.5	月平均 240.1mm (1953年～2019年:水文統計資料[第14版])
	基準年 (mm)	406.5	2,635.5	3,042.0	月平均 253.5mm 計画基準年 2010年 (気象庁HPデータ)
降水日数	平 均 (日)	50.7	157.9	208.6	月平均 17.4日 (1953年～2019年:水文統計資料[第14版])
	基準年(日)	47.0	179.0	226.0	月平均 18.8日 計画基準年 2010年 (気象庁HPデータ)
根 雪 期 間		1月1日 ～ 3月13日 72日間		高田 1991年～2020年の平年値 (気象庁HPデータ)	
無 霜 期 間		4月15日 ～ 11月18日 218日間		高田 1991年～2007年の平年値 (気象庁HPデータ)	
最 多 風 向		南	最大風速 (風 向)	23.1 m/s (南)	最多風向発生時期 1～5月、7～12月 最大風速発生年月日 1959年4月5日 (気象庁HPデータ)

(2) 特殊気象

観測所名	第 1 位			第 2 位			第 3 位			第 4 位			第 5 位			備考
高田																
観測期間	数	年月日	発生確率	数	年月日	発生確率	数	年月日	発生確率	数	年月日	発生確率	数	年月日	発生確率	
1953年～2019年	量	日		量	日		量	日		量	日		量	日		
最大日雨量 (mm)	176.0	1985.7.8	1/30	173.5	2017.7.1	1/30	164.5	1985.11.8	1/20	160.3	1959.7.11	1/15	147.5	1999.9.15	1/10	気象庁HPデータ 1953年～2023年
最大時間雨量 (mm)	91.0	2006.10.29	—	64.1	1962.9.15	—	62.0	2022.8.13	—	60.5	1998.7.30	—	60.0	2016.7.27	—	気象庁HPデータ 1953年～2023年
最大4時間雨量 (mm)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
最大連続雨量 (mm)	897.5	1956.11.25 ～ 1956.12.28	1/100	824.0	2010.12.20 ～ 2011.2.1	1/50	816.5	1968.1.13 ～ 1968.2.17	1/50	682.5	1984.12.11 ～ 1985.1.8	1/30	663.5	1970.11.22 ～ 1970.12.11	1/25	気象庁HPデータ 1953年～2023年
最大連続干天日数 (日)	46	1994.7.3 ～ 1994.8.17	1/500	29	2010.7.16 ～ 2010.8.13	1/20	29	2018.7.8 ～ 2018.8.5	1/20	28	2000.7.26 ～ 2000.8.22	1/15	27	1974.5.27 ～ 1974.6.22	1/10	気象庁HPデータ 1953年～2023年

(3) 海象

該当なし

2. 地形、土質及び土壌

本地区は、新潟県上越市の南部に位置し、標高16.9m～34.0mの扇状地である。
地形は西高東低の緩慢な傾斜を成しており、主傾斜は1/140となっている。

(1) 地形

事業名	地 目	田						畑 ・ そ の 他						受益地標高 (m)		備 考
	傾斜区分	1/1,000 未満	1/1,000 ～ 1/100	1/100 ～ 1/20	1/20 ～ 1/11.5	1/11.5 以上	計	3° 未満	3° ～ 8°	8° ～ 15°	15° ～ 20°	20° 以上	計	最 高	最 低	
区画整理	面積 (ha)	—	66.0	—	—	—	66.0	3.8	—	—	—	—	3.8	34.0	16.9	
	比率 (%)	—	100	—	—	—	100	100	—	—	—	—	100			
合 計	面積 (ha)	—	66.0	—	—	—	66.0	3.8	—	—	—	—	3.8	—	—	
	比率 (%)	—	100	—	—	—	100	100	—	—	—	—	100			

(2) 地質及び土壌

本地区の土壌は「D-30強グライ土壌強粘土還元型」及び「D-31強グライ土壌強粘土斑鉄型」である。

3. 水利状況

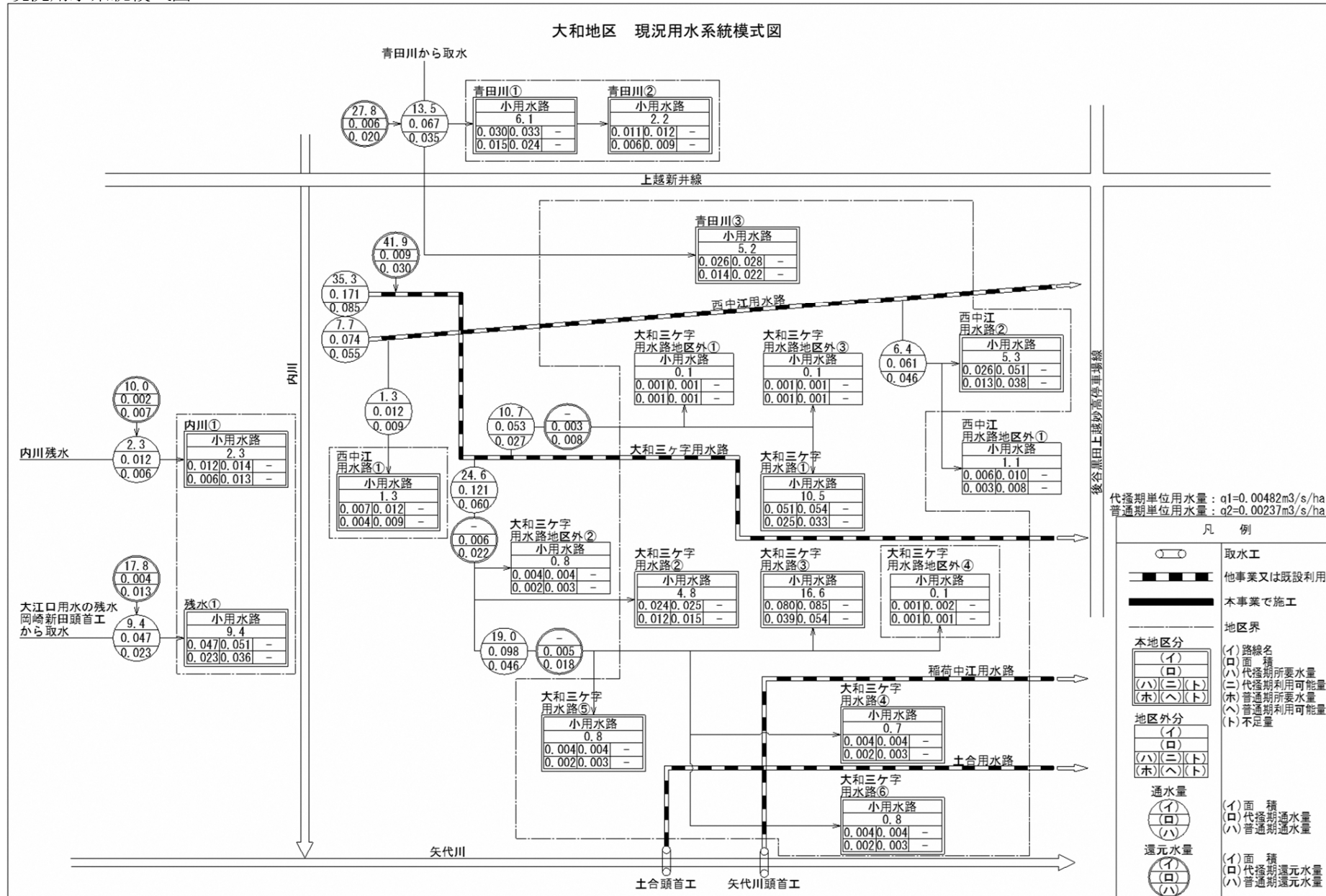
(1) 用水状況

本地区は、一級河川青田川、一級河川内川を水源とし、地区外用水路を経て開水路方式にてかんがいしている。
また、一部農地においては他地区の残水及び還元水を利用し、かんがいを行っている。

(ア) 用水系統

現況用水系統模式図のとおり。

現況用水系統模式図



(イ) 用水施設

事業名	項 目 施設名	か ん が い 面 積						計		許可水利権		慣行水利権等		延 べ 取水量	備 考
		500ha以上		500～100ha		100ha未満									
		箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha	箇所	m ³ /s	箇所	m ³ /s	m ³ /s	
区画整理	井堰	—	—	—	—	1	13.5	1	13.5	—	—	1	0.073 0.055	0.067	青田川
	頭首工	—	—	—	—	1	35.3	1	35.3	—	—	1	0.180 0.115	0.171	大和三ヶ字用水
	自然取水口	—	—	—	—	1	7.7	1	7.7	—	—	1	0.074 0.055	0.074	西中江用水
	その他	—	—	—	—	2	11.7	2	11.7	—	—	2	0.065 0.049	0.059	残水区域
合 計		—	—	—	—	5	68.2	5	68.2	—	—	5	0.392 0.274	0.371	

※かんがい面積は地区外含む、上段：代掻期、下段：普通期

(ウ) 改修を要する施設一覧表

該当なし

(2) 排水状況

本地区の排水は、地区内の小排水路及び支線排水路を経て一級河川内川及び地区外排水路へ自然排水される。

また、一部農地の排水は、地区外農地の用水として幹線用水路へ還元される。

(ア) 排水系統

現況排水系統模式図のとおり。

大和地区 現況排水系統模式図

凡 例

- 他事業又は既設利用
- 本事業で施工
- 地区界
- 地区内
- 地区外

流域番号

路線名

面積

排水量 1/10

排水量 1/2

流域番号

路線名

面積

排水量 1/10

排水量 1/2

面積

排水量 1/10

排水 1/2

合理式

4時間雨量

4時間排除

(イ) 排水施設

事業名	項 目 施設名		排 水 面 積						計		排水慣行 (m³/s)		現況排水能力 (m³/s)		備 考
			500ha以上		500～100ha		100ha未満								
			箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha					
区画整理	自然	排水路	—	—	—	—	22	133.2	22	133.2	—	—	—	—	一級河川内川 地区外排水路 幹線用水路
合 計			—	—	—	—	22	133.2	22	133.2	—	—	—	—	

※排水面積は地区外含む

(ウ) 改修を要する施設一覧表

事業名	項 目		施設名又は箇所数	受益面積 (ha)	構 造	規 模	新設年度 又は 更新年度	改修を必要 とする理由	備 考
	施設名								
区画整理	自然	排水樋管	河川吐出 1ヶ所	1.0	遠心力鉄筋コンクリート管	φ 600mm	不明	能力不足	一級河川内川
	計		—	1.0	—	—	—	—	
	合 計		—	1.0	—	—	—	—	

4. 河川状況

該当なし

5. 道路概況

本地区は主要地方道上越新井線、一般県道後谷黒田上越妙高停車場線に近接し、農産物の流通等に関する基盤が整っている。
地区内の農道は多数配置されているが、幅員が非常に狭く耕作機械のすれ違いや作物物資の搬入搬出などに支障を来している。

6. 営農状況

本地区は水稻を主とした営農が展開されており、担い手への農地集積を進めてきたが、現況の水田が6 a程度であるうえ、農道が狭小なことから大型機械の作業効率を十分に発揮できず、集積が進まない状況にある。

また、排水不良による湿田状態であり、農地の汎用化・高度利用の阻害要因となっている。

第4節 地域環境の概況

本地区は、上越市の南部に位置する一級河川青田川の扇状地扇端で、久比岐県立自然公園の名峰を背景に水田が広がる自然豊かな環境である。

地区の北側には北陸新幹線上越妙高駅があり、周辺では近年アクセス道路の整備や歴史公園の整備など都市基盤整備や景観形成、賑わいの創出などを目的とした都市再生整備計画事業が実施されているが、地区周辺の水田や集落は農村・田園風景が色濃く残り、保全すべき環境となっている。

第3章 基本計画

第1節 事業計画の要旨

1. 要 旨

本事業計画は、区画の拡大及び農道の整備を行い大型機械化農業に対応する。用排水路は舗装化により水管理及び維持管理の負荷軽減を考慮した計画とし、暗渠排水施工により耕地の汎用化を行う。

これにより、担い手への農地の集積・集約化から経営規模の拡大を図り、生産コストの低減や園芸作物の導入による所得向上を可能にし、効率的かつ安定的な農業経営を確保する。

2. 事業別面積

事業目的	事業名 土地利用区分	区画整理					計 (ha)	備 考
		水 田 (ha)	普 通 畑 (ha)	牧 草 畑 (ha)	果 樹 園 (ha)	小 計 (ha)		
	区画整理	62.8	0.6	—	—	63.4	63.4	
	計	62.8	0.6	—	—	63.4	63.4	

3. 環境との調和への配慮

本地区は「高生産農業エリア」に位置づけられ、農業の生産性を重要視し、農作業の効率化・省力化を目指したほ場整備の推進を図っていくエリアである。しかし、ほ場整備により動植物の生息環境が減少し、生態系のバランスに大きな影響を及ぼす恐れがある。

このため、土水路の一部区間において、施工時の生息環境を確保するため、工事前に生物を捕獲・採種し、下流の川底に砂泥が堆積する区間へ放流する。また、当該水路は法面と河床の一部をブロックマットで整備する計画であるため、整備後も泥底が残り、生き物が住みやすい空間となる。

第2節 営農計画及び土地利用計画

1. 営農計画の概要

農業生産基盤の整備により水田の高度利用を可能にし、近代的で効率的な農業の確立を目指す。

農地集積・集約化により経営規模の拡大を図り、園芸作物導入による安定的な農業経営と本地域の農業競争力強化を図る。

2. 土地利用区分

事業名	土地利用 区分	耕地							採草 放牧地 (ha)	原野 (ha)	山林 (ha)	その他 (ha)	計 (ha)	備 考
		水田 (ha)	普通畑 (ha)	牧草畑 (ha)	果樹園 (ha)	茶園 (ha)	その他の 樹園地 (ha)	小計						
区画整理	現 況	66.0	3.8	—	—	—	—	69.8	—	—	—	15.1	84.9	
	計 画	62.8	0.6	—	—	—	—	63.4	—	—	—	21.5	84.9	
計	現 況	66.0	3.8	—	—	—	—	69.8	—	—	—	15.1	84.9	
	計 画	62.8	0.6	—	—	—	—	63.4	—	—	—	21.5	84.9	

第3節 用水計画

1. 計画基準年

本地区は、最も近い高田気象観測所の降雨資料及び、新潟県農地部発行の「農業農村整備事業計画 水文統計資料 [第14版] 令和3年8月」により、計画基準年を決定した。

計画基準年：平成22年（2010年）

2. 計画かんがい方式

（1）かんがい期間

水 稲：5月5日～9月7日（代掻き 5月5日～5月14日）

畑作物： —————

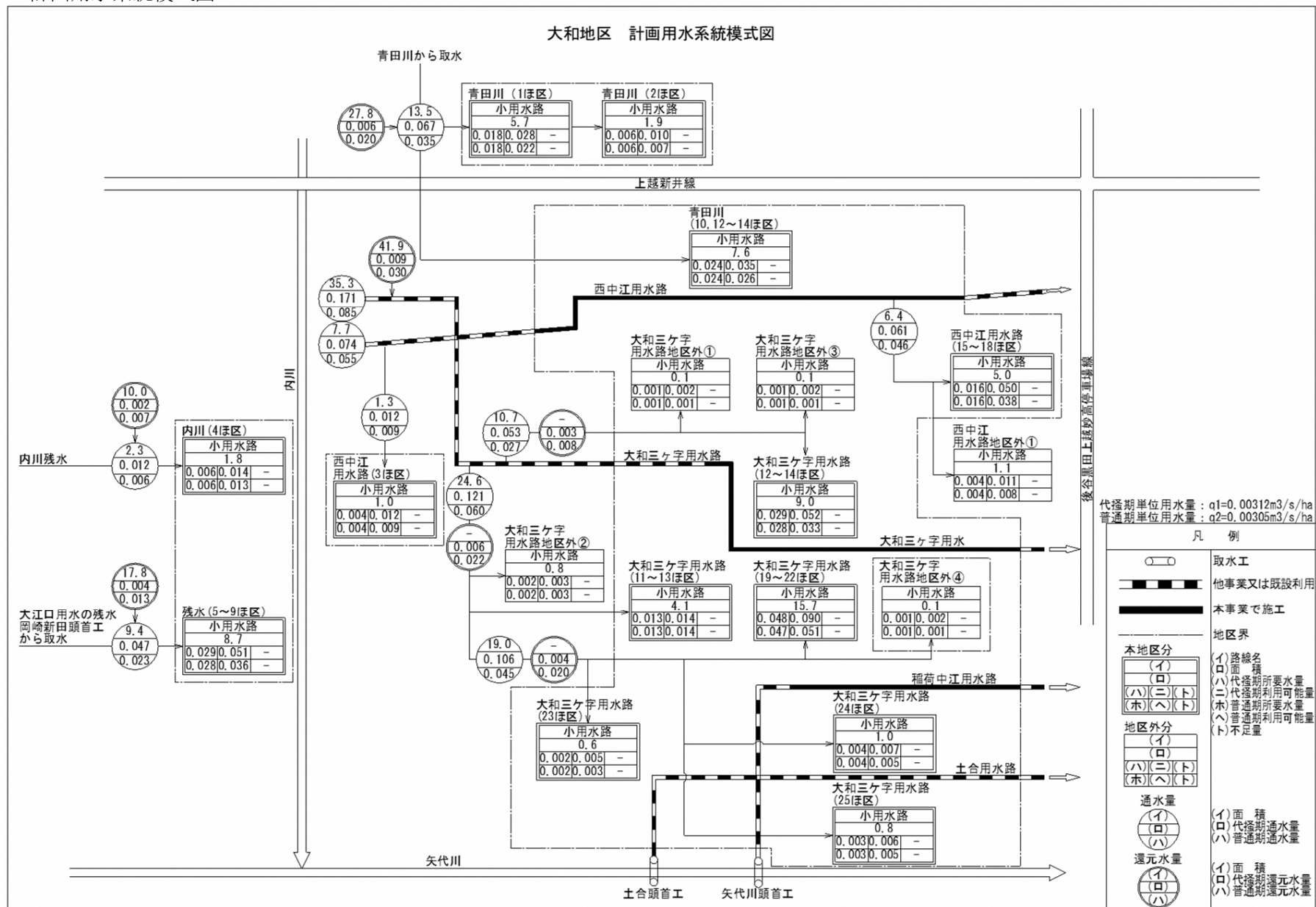
（2）かんがい方式

地区内は、開水路方式とする。

3. 計画用水系統

計画用水系統模式図のとおり。

計画用水系統模式図



4. 計画用水量

系統名 項目	種別	面積(ha)	水田かんがい			水田畑利用			畑地かんがい			そ の 他		消費水量 量	損失率	粗用水量		備 考	
		事業名	普通期	代かき期	面	一日平均かん水深 平均間断日数 一日当たり計画	平均かん水深 平均間断日数 一日当たり計画	面	一日平均かん水深 平均間断日数 一日当たり計画	平均かん水深 平均間断日数 一日当たり計画	面	単位用水量 計画平均	面						
		区画整理														単位用水量 計画平均	単位用水量 計画代かき量		積
(mm/日)	(mm)	(ha)	(mm/日)	(日)	(ha)	(mm/日)	(日)	(ha)	(mm/日)	(ha)	(m³/s)	(%)	(m³/s)	(m³/s)					
大和三ヶ字用水路	農業用水	31.1	(12.1) 16.8	120.0	31.1	—	—	—	—	—	—	—	—	(0.084) 0.082	15	—	(0.099) 0.097	()内は 代掻き期	
西中江用水路	農業用水	6.0	(12.1) 16.8	120.0	6.0	—	—	—	—	—	—	—	—	(0.017) 0.017	15	—	(0.020) 0.020	〃	
青田川、内川、残水	農業用水	25.7	(12.1) 16.8	120.0	25.7	—	—	—	—	—	—	—	—	(0.071) 0.070	15	—	(0.083) 0.082	〃	
計		62.8			62.8	—	—	—	—	—	—	—	—	(0.172) 0.169		—	(0.202) 0.199	〃	

5. 水源計画

(1) 水利用計画

項目 区分	消費水量	有効雨量	純用水量	粗用水量	現況利用可能水量			不足水量		水源依存量		水源工種	備考
					水源名	取水地点 利用可能	ほ場利用 可能量	純不足 水量	全不足 水量	水源名	水量		
	a (千m³)	b (千m³)	c=a-b (千m³)	$d=\frac{c}{(1-\alpha)}$ (千m³)		e (千m³)	f (千m³)	g=c-f (千m³)	h=d-e (千m³)		(千m³)		損失率 : α
区画整理	水田かんがい	716	—	716	842	大和三ヶ字用水路	64,049	64,049	—	—	—	—	15%
	〃	138	—	138	162	西中江用水路	5,063	5,063	—	—	—	—	15%
	〃	598	—	598	703	青田川、内川、残水	40,920	40,920	—	—	—	—	15%
	計	1,452	—	1,452	1,707		110,032	110,032	—	—			—

第4節 排水計画

1. 計画基準雨量

観測所名：高田 1953年(昭和28年)～2019年(平成31年)

資 料：水文統計資料(第14版 令和3年8月 新潟県農地部)

1/ 2確率年 95.8 mm/day

1/10確率年 143.2 mm/day

2. 計画排水方式

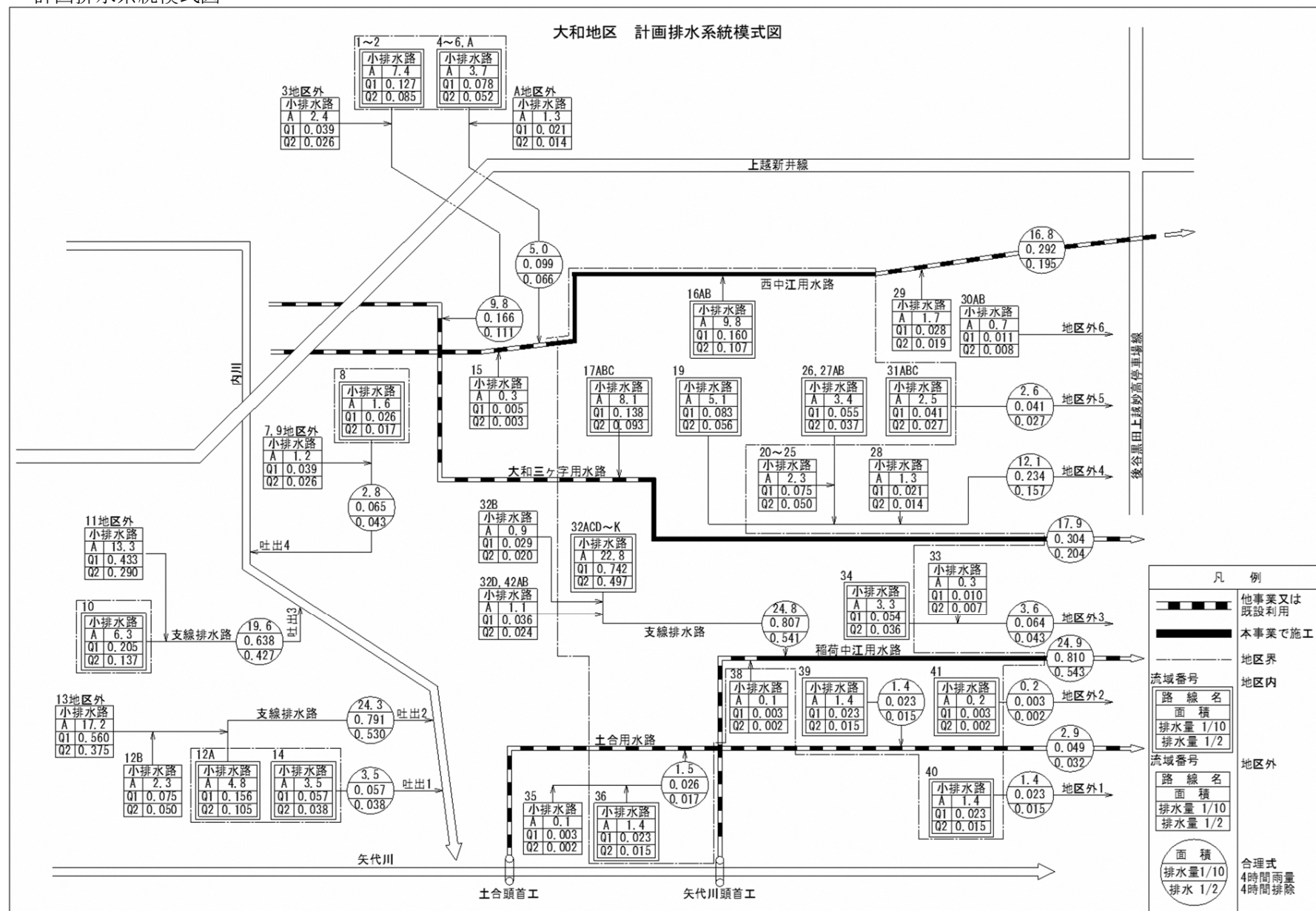
本地区の排水は、地区内の小排水路及び支線排水路を経て一級河川内川及び地区外排水路へ自然排水される。

また、一部農地の排水は、地区外農地の用水として幹線用水路へ還元される。

3. 計画排水系統

計画排水系統模式図のとおり。

計画排水系統模式図



4. 計画排水量

排水系統名	項 目	受益面積 (ha)	流域面積		基準 雨量 (mm)	降 雨 に よ る 直接単位流出量 (m³/s/km²)		基底流出量 (m³/s/km²)		全 排 水 量 (m³/s)			単位排水量 (m³/s/km²)		備 考
		事業名								山 地	平 地	山 地			
			区画整理	山 地		平 地	山 地	平 地	山 地				平 地	自然排水	
内川		11.8	—	0.502	143.2	3.256	1.625	—	—	—	1.551	—	3.256	1.625	
地区外		11.6	—	0.205	〃	〃	〃	—	—	—	0.376	—	〃	〃	
土合用水路		1.6	—	0.029	〃	〃	〃	—	—	—	0.047	—	〃	〃	
西中江 用水路		8.4	—	0.168	〃	〃	〃	—	—	—	0.292	—	〃	〃	
稻荷中江 用水路		17.9	—	0.249	〃	〃	〃	—	—	—	0.81	—	〃	〃	
大和三ヶ字 用水路		12.1	—	0.179	〃	〃	〃	—	—	—	0.304	—	〃	〃	
計		63.4	—	1.332	—	—	—	—	—	—	3.380	—	—	—	

第5節 道路計画

1. 道路

番号	項目	幅（有効）×延長 （m）（km）	構造	既設道路との関係	備考
	路線名				
1	支線道路	6.0(5.0)×3.5	砂利舗装 転用土	市道と接続	
2	耕作道路	5.0(4.0)×10.3	砂利舗装 転用土	市道及び支線道路と接続	

2. 索道

該当なし

第6節 農用地造成計画

該当なし

第7節 農用地整備計画

1. 区画整理

(1) 区画の形状

長辺×短辺 (m)	区画面積 (ha)	全体面積 (ha)	割合 (%)	田面差 (m)	備考
185×58	1.0以上	17.0	26.8	0～1.5	
170×55	0.3～1.0	45.2	71.3	0～1.5	
端歩田	0.3未満	0.6	1.0	0～1.5	
整形	—	0.6	0.9	—	畑
計		63.4			

(2) 表土扱い

面積 (ha)	表土扱い要否の理由	扱い深 (cm)	土量 (m ³)	備考
62.8	下層土の透水性が悪く、ほ場整備後に土層の透水係数が極端に悪化する恐れがあるため。	15	94,200	

(3) 末端道水路配置図

該当なし

2. 暗渠排水

(1) 暗渠排水

項目 区分	面積 (ha)		土壌統 (区) 名	基準雨量 (mm/日)	単位排水量 ($\frac{l}{s}/ha$)	計画後の地 下水位 (m)	集水渠出口 以下の排水 方式	備考
	事業名							
	区画整理	計						
本暗渠	55.2	55.2	強グライ土壌 強粘土還元型	50	8.5	0.5	自然排水	
本暗渠	7.6	7.6	強グライ土壌 強粘土斑鉄型	50	8.5	0.5	自然排水	
計	62.8	62.8						

(2) 心土破砕

該当なし

3. 客土

該当なし

4. 農地保全

該当なし

第4章 工事又は管理の要領

第1節 工事の内容

項目 施設名	工事内容	事業量	規模・構造	備考
田畑整地	整地工	63.4 ha	標準区画185×54m、表土扱い15cm	
農道	道路工	13.8 km	支線道路6.0(5.0)m、耕作道路5.0(4.0)m、敷砂利	
用水路	用水路工	11.4 km	BF300～450mm、ブロックマット護岸B2.5～6.6×H1.3m、鉄筋コンクリート大型水路H0.6×B1.3m～H1.1×B2.0m	
排水路	排水路工	8.8 km	Vuφ200～450mm、HF300×300～800×800mm、HPφ700mm、既設HF600×400～800×600mm、河川吐出改修1ヶ所	
暗渠排水	暗渠排水工	62.8 ha	素焼陶管、塩ビ管φ75mm	

第2節 管理の要領

1. 管理者

施設名	管理者	備考
用水路、排水路、農道ターン	和田土地改良区	

2. 管理方法に関する基本的事項

本事業において整備される施設については、和田土地改良区が維持管理計画に基づき適正な管理を行う。

第5章 換地計画の要領

1. 換地計画樹立の必要性

当該事業は、土地改良法第2条第2項に基づく区画整理事業であり、その性質上換地計画を樹立する必要がある。

2. 換地計画樹立の基本方針

(1) 従前の土地の地積の基準

換地区名	地積の基準
全換地区	換地交付の基準とする従前の土地の地積は、土地改良事業計画決定の日の登記地積とする。 ただし、上記の日から3か月以内に、測量士、測量士補又は土地家屋調査士の測量した実測図及び隣接土地所有者の同意書を添付して申し出があった場合には、その申し出のあった地積とする。

(2) 農用地集団化の方法

換地区名	区分	地帯別、グループ別団地の設定	個人別換地の方法		
			位置の選択方法	一戸当たり目標団地数	区画畦畔の取扱い
全換地区		◎集落別集団化 集落毎の出入作を解消し、集落単位 の共同作業や農地の維持管理が容易 となるよう、その権利者の属する集 落単位に集団化を図る。 ◎営農グループ別集団化 地域の担い手の経営農用地の面的な 集積を積極的に推進する。 ◎地目別集団化 水田に混在する畑は田の集団化の阻 害にならないよう地区の端田区に換 地する。	各人の従前の土地条件及び意向調査等の結果を踏まえ、各種グループ別集団化との調整を図りながら、経営体の営農効率が向上するよう換地選定し集団化を図る。	1戸当たりの団地数は、集落別集団化の範囲内において、概ね1～2団地を目標とする。	固定畦畔とする。

(3) 非農用地の換地方法

区分 換地区名	種類	非農用地区域の 位置の概略	面積 (m ²)	換地の手法	換地取得予定者	その他
全換地区	歩道用地	上越市稲荷 外	3,000	不換地・特別減歩見合いの創設換地	上越市	

(4) 清算の方法

増価額比例地積清算方式による。

3. 土地改良法第5条第6項に規定する国有地等の編入承認に係る地積

用途 区分	機能交換に係る土地 (ha)				一般国公有地 (ha)	合計 (ha)	備考
	国有地	都道府県有地	市町村有地	計			
道路、水路	-	-	15.1	15.1	-	15.1	
計	-	-	15.1	15.1	-	15.1	

4. 換地処分の特則

換地計画の対象となる区域内の区画形状の変更に係る工事が全て完了し、確定測量が実施されたときは、土地改良法第89条の2第10項で準用する同法第54条第2項本文の規定にかかわらず、換地処分ができるものとする。

第6章 費用の概算

(単位：千円)

事業名等 区分	区画整理	合計	備 考
主 要 工 事	2,341,500	2,341,500	内工事雑費 39,025 内地方事務費 72,475
附 帯 工 事	-	-	
計	2,341,500	2,341,500	

(単位：千円)

事業名等	区 分	工 事 費				工 事 雑 費				地方事務費			
		国	県	市町村	地元	国	県	市町村	地元	国	県	市町村	地元
区画整理	負 担 率	% 62.5	% 27.5	% 10.0	% —	% —	% 100.0	% —	% —	% —	% 100.0	% —	% —
	負担金額	1,393,750	613,250	223,000	—	—	39,025	—	—	—	72,475	—	—
合計	負 担 率	% 62.5	% 27.5	% 10.0	% —	% —	% 100.0	% —	% —	% —	% 100.0	% —	% —
	負担金額	1,393,750	613,250	223,000	—	—	39,025	—	—	—	72,475	—	—

第 7 章 効 用

事業名等	区 分	項目	年総効果（便益）額 （千円）	年総増加農業所得額 （千円）	備 考
区 画 整 理		作物生産効果	47,434	8,748	総費用（現在価値化）＝ 1,986,990 千円 総便益（現在価値化）＝ 2,826,650 千円 総費用総便益比＝ $\frac{2,826,650}{1,986,990} = 1.42$ 増加所得償還率＝ $\frac{-}{116,178} \times 100 = -$
		営農経費節減効果	102,350	107,430	
		維持管理費節減効果	△1,549	-	
		農業労働環境改善効果	2,293	-	
		地籍確定効果	236	-	
		景観・環境保全効果	594	-	
		国産農産物安定供給効果	7,178	-	
		計	158,536	116,178	
合 計		作物生産効果	47,434	8,748	
		営農経費節減効果	102,350	107,430	
		維持管理費節減効果	△1,549	-	
		農業労働環境改善効果	2,293	-	
		地籍確定効果	236	-	
		景観・環境保全効果	594	-	
		国産農産物安定供給効果	7,178	-	
		計	158,536	116,178	

第8章 他の事業との関係

該当なし

第9章 計画概要図

別紙図面のとおり。

令和7年度 新規採択希望(着工地区)
 区画整理(経営体育成基盤整備「農地中間管理機構関連型」)事業

新潟県 大和地区 計画概要図

縮尺1:7,000

県内位置



凡 例	
色 別	名 称
	区画整理(田)
	区画整理(畑)
	暗 渠 排 水
	創 設 非 農 用 地
	土 地 改 良 施 設 用 地
	農 道 タ ー ン
	計 画 用 水 路 (開)
	計 画 用 水 路 (暗 渠)
	計 画 排 水 路 (開)
	計 画 排 水 路 (管)
	既 設 用 水 路
	既 設 排 水 路
	県 道
	市 道
	計 画 農 道
	河 川
	鉄 道
	揚 水 機 場 (既 設)